

面積要件を満たしていないが、ポテンシャルがあるため保留扱いになっていたものや第二回委員会で特段の指摘のあったもの等で、検討が必要なものをピックアップ

(抜粋版)

現行の保護林					区分の再編(案)					
区分	名称	面積 (ha)	該当署	設定	第二回案→委員会後の修正案	事務局案	名称(案)	面積 (ha)	検討事項	添付図面 (補足説明用)
林木遺伝資源保存林	赤谷山天スギ	3.00	下越	H5	保留				<ul style="list-style-type: none"> 赤谷山天スギ林木遺伝資源保存林の希少性について 赤谷スギ希少個体群保護林との両立について 総合的に見た当該森林の方向性について 	資料3-1 1P
植物群落保護林	赤谷天スギ	143.95	下越	S52	希少個体群保護林					
林木遺伝資源保存林	一の倉・ブナ	7.53	利根沼田	H2	廃止→保留	廃止			<ul style="list-style-type: none"> 当該地域のブナの希少性 利根川源流部・燧ヶ岳周辺森林生態系保護地域に代表されていること 周辺は、レク森(一の倉・マチガ沢風景林)、上信越高原国立公園谷川岳集団施設地区の自然探勝エリア、みなかみ町谷川岳エコツーリズム推進全体構想の自然探勝・レッキングの利用拠点 →保護を念頭においたレクリエーション型の利用が検討可能 	資料3-1 6P
林木遺伝資源保存林	栗原川ウダイカンバ	11.75	利根沼田	H2	希少個体群保護林			11.75	<ul style="list-style-type: none"> ウダイカンバの希少性について(地域的、遺伝的) ウダイカンバの維持のための人為的な施業の可能性(皆伐など) 総合的にみた保護林に位置づける必要性について 	資料3-1 9P
林木遺伝資源保存林	白川カシ群落	3.19	伊豆	H3	保留	希少個体群保護林	白川ウラジロガシ遺伝資源	5.08	区域の拡張	資料3-1 9P
林木遺伝資源保存林	津島マツ	3.43	磐城	S62	保留	希少個体群保護林	津島マツ遺伝資源	3.43	区域の拡張が検討不可能 →尾根部にアカマツが残っていると考えられ、拡張のポテンシャルはあると考えられる →避難指示区域(帰宅困難区域)にあり、周囲3方向は遊々の森となっていることから実際はこれ以上の検討が困難 ・このままの面積で希少個体群保護林に位置づけるか ・廃止し、地元からの要望があれば再設定を行うか	資料3-1 12P
林木遺伝資源保存林	白山ケヤキ	3.01	下越	H5	保留	希少個体群保護林	白山ケヤキ遺伝資源	6.53	区域の拡張	資料3-1 12P
林木遺伝資源保存林	八丁池ブナ群落	252.58	伊豆	H3	保留	生物群集保護林	八丁池周辺		区域の拡張 →2つの保護林を結ぶ区域を生物群集保護林として拡張する	資料3-1 14P
植物群落保護林	皮子平ブナ・ヒメシャラ	4.06	伊豆	H3						

現行の保護林					区分の再編(案)					
区分	名称	面積 (ha)	該当署	設定	第二回案→委員会後の修正案	事務局案	名称(案)	面積 (ha)	検討事項	添付図面 (補足説明用)
林木遺伝資源保存林	富士山大沢カラマツ・イラモミ・ウラジロモミ群落	252.39	静岡	H3	生物群集保護林	生物群集保護林	富士山	1,027.09		資料3-1 16P
林木遺伝資源保存林	浅木塚ヒノキ群落	20.43	静岡	H3						
植物群落保護林	富士山亜高山帯	680.19	静岡	H3						
植物群落保護林	富士山東臼塚低山帯	74.08	静岡	H3						
特定地理等保護林	富士山	926.91	静岡	H5	保留	廃止		—	・標高2500m(森林限界)から3200m(永久凍土下限)に位置し、大部分が自然裸地。 ・3区分に当てはまらないため保護林としては廃止 ・国立公園に指定されているため、保護については担保されていると考えられる	
林木遺伝資源保存林	二岐山ミズメ	8.17	白河	H6	生物群集保護林	生物群集保護林	甲子・二岐山周辺生物群集保護林	3,100.08	二岐山ミズメを隣接する生物群集保護林に統合 ・ミズメのモニタリングを行いながら、自然の遷移に委ねる ・ミズメは中ギャップに依存する種なので、ブナの大木が倒れてギャップができれば更新は可能か	資料3-1 19P
植物群落保護林	甲子・二岐周辺冷温帯ブナ	3,091.91	白河	H25						
林木遺伝資源保存林	武尊山シラカンバ	8.60	利根沼田	H2	廃止→保留				・シラカンバの希少性について(地域的、遺伝的) ・シラカンバの維持のための人為的な施業の可能性(火入れ、大面積皆伐) ・総合的にみた保護林に位置づける価値について	資料3-1 22P
植物群落保護林	板春暖帯性	10.68	茨城	S48	保留	希少個体群保護林	板木リンボク・カゴノキ	10.68	希少個体群保護林に位置づける ・H19モニタリング調査では草本層にカゴノキが確認されている ・暖温帯性植物群落の北限であり、希少である	資料3-1 22P
植物群落保護林	大影ミヤマツチトリモチ	2.12	利根沼田	S51	保留	廃止		—	廃止し、来年度の夏に現地調査を行う	資料3-1 26P
植物群落保護林	オツボギのホソバシャクナゲ	1.23	天竜	S48	希少個体群保護林	希少個体群保護林	瀬尻ホソバシャクナゲ	21.2	・区域の拡張 ・名称の検討(オツボギの漢字はないか) →オツボギ林道があるがこれ以外にオツボギの名称や漢字は無い →国有林名:瀬尻国有林、静岡県指定天然記念物「竜山のホソバシャクナゲ」	資料3-1 26P
植物群落保護林	迦葉山天然ヒバ	2.44	利根沼田	S9	保留	希少個体群保護林	玉原アスナロ	5.73	・区域の拡張 ・名称の検討 →迦葉山だと、谷をはさんで反対であり、エリア的には玉原か	資料3-1 30P
植物群落保護林	観音山の森林(スギ・広葉樹)	4.60	天竜	S22	保留	希少個体群保護林	観音山スギ・シブカワツツジ	7.94	区域の拡張 →周辺のレク森の利用状況については、静岡県の観音山少年自然の家において年間を通じ利用されているため、レク森を廃止し保護林に編集することについては静岡県も活動しにくくなると思われるため、区域拡大としては5haが確保できる最小限の162 る、は林小班までか	資料3-1 30P
植物群落保護林	光徳ハルニレ	3.69	日光	H16	保留	希少個体群保護林	光徳ハルニレ		保留	資料3-1 36P
植物群落保護林	滝天然サワラ	0.49	白河	S50	保留	希少個体群保護林	滝サワラ		保留	資料3-1 36P

現行の保護林					区分の再編(案)					
区分	名称	面積 (ha)	該当署	設定	第二回案→委員会後の修正案	事務局案	名称(案)	面積 (ha)	検討事項	添付図面 (補足説明用)
植物群落保護林	長九郎シャクナゲ	2.65	伊豆	H3	保留	希少個体群保護林	長九郎シャクナゲ		保留	資料3-1 39P
植物群落保護林	法師ネズコ	3.47	利根沼田	S9	保留	希少個体群保護林	法師クロベ	17.41	区域の拡張	資料3-1 39P
植物群落保護林	本坂峠のヤブツバキ	1.60	天竜	H5	保留	希少個体群保護林	本坂峠ヤブツバキ	5.76	区域の拡張	資料3-1 42P
植物群落保護林	増沢モミ	3.90	福島	H7	保留	希少個体群保護林	増沢モミ		保留	資料3-1 42P
植物群落保護林	南房総暖温帯性	4.24	千葉	H2	保留	希少個体群保護林	南房総モミ	5.56	・区域の拡張	資料3-1 45P
植物群落保護林	茂庭ブナ	1,291.50	福島	H16	保留	廃止			・ブナの希少性 →近くの吾妻山地森林生態系保護地域に代表されている 鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊へ編入し、保護は図られる	資料3-1 45P
郷土の森	菅名岳		下越	H5	保留	廃止			— 引き続き自然維持タイプによる管理を行う。	資料3-1 50P
郷土の森	博士山	204.02	会津	H3	保留	廃止			— 引き続き自然維持タイプによる管理を行う。	資料3-1 50P
郷土の森	恵みの森	470.45	南会津(支)	H15	保留	廃止			— 引き続き自然維持タイプによる管理を行う。	資料3-1 50P
郷土の森	村上市朝日地区(旧名称:朝日村)	200.00	村上(支)	H5	保留	廃止			— 引き続き自然維持タイプによる管理を行う。	資料3-1 51P

(名称の検討)

(原則)保護林設定管理要領より

・森林生態系保護地域及び生物群集保護林に関しては地域、山地、河川名等を付した名称、希少個体群保護林に関しては地域及び保護対象野生生物名若しくは保護対象野生生物名のみを付した名称とする(例:〇〇山周辺 森林生態系保護地域、〇〇川 生物群集保護林、〇〇(地域名)△△(野生生物名)希少個体群保護林)。

・保護林再編に際し、旧林木遺伝資源保存林が希少個体群保護林等に移行された場合には、名称中に「遺伝資源」を付することとする(例:□□(樹種名)遺伝資源 希少個体群保護林)。ただし、旧林木遺伝資源保存林が他の森林生態系保護地域や生物群集保護林に統合された場合にはこの限りでない。

(関東局ルール)

旧林木遺伝資源保存林が統合を伴わずに希少個体群保護林に移行した場合は遺伝資源を付す

(抜粋版)

現行の保護林					区分の再編(案)			
区分	名称	面積 (ha)	該当署	設定	振分後の区分(案)	名称(案)	面積 (ha)	添付図面 (補足説明用)
林木遺伝資源保存林	小川ブナ群落	32.49	茨城	H1	希少個体群保護林	小川低山帯ブナ 遺伝資源 →小川ブナ	103.51	資料3-2 52P
植物群落保護林	小川ブナ	67.42	茨城	S44				
植物群落保護林	定波シラカバ	3.60	茨城	S59				
林木遺伝資源保存林	木戸川コナラ	6.58	磐城	S62	希少個体群保護林	木戸川中間温帯コナラ 遺伝資源 →木戸川コナラ	108.23	資料3-2 52P
植物群落保護林	木戸川モミ・コナラ等	101.65	磐城	S53				
林木遺伝資源保存林	西ノ湖畔ヤチダモ	18.05	日光	S62	希少個体群保護林	千手ヶ原ミズナラ・ハルニレ・ヤチダモ 遺伝資源 →千手ヶ原ミズナラ・ハルニレ	98.95	資料3-2 53P
林木遺伝資源保存林	千手ヶ原ドロノキ	13.20	日光	S62				
植物群落保護林	千手ヶ原ミズナラ・ハルニレ	67.70	日光	S48				
林木遺伝資源保存林	西ノ湖マツ	16.50	日光	S62	希少個体群保護林	西ノ湖ヒメコマツ・シロヤシオ 遺伝資源 →西ノ湖ヒメコマツ・シロヤシオ	56.24	資料3-2 53P
植物群落保護林	西ノ湖ヤシオツツジ	39.74	日光	S48				
林木遺伝資源保存林	元清澄山 (モミ・ツガ)	170.29	千葉	H2	希少個体群保護林	元清澄山暖温帯ツガ・ヒメコマツ・キヨスミツバツツジ 遺伝資源 →元清澄山ツガ・ヒメコマツ遺伝資源	170.29	資料3-2 53P
植物群落保護林	上野檜原のシオジ	290.19	群馬	S30	生物群集保護林	上野檜原 →上野檜原シオジ等溪畔種	290.19	資料3-2 54P

現行の保護林					区分の再編(案)			
区分	名称	面積 (ha)	該当署	設定	振分後の区分(案)	名称(案)	面積 (ha)	添付図面 (補足説明用)
植物群落保護林	大平モミ	1.57	東京神奈川	H2	希少個体群保護林	高尾山冷温帯下部モミ →高尾山モミ	4.85	資料3-2 54P
植物群落保護林	高尾山モミ	3.28	東京神奈川	H2				
植物群落保護林	和尚山温帯性	23.17	茨城	S48	希少個体群保護林	和尚山暖温帯上部ブナ →和尚山ブナ	23.17	資料3-2 54P
植物群落保護林	オツボギのホソバシャクナゲ	1.23	天竜	S48	希少個体群保護林	オツボギのホソバシャクナゲ →瀨尻ホソバシャクナゲ	21.2	資料3-1 26P
植物群落保護林	迦葉山天然ヒバ	2.44	利根沼田	S9	希少個体群保護林	迦葉山アスナロ →玉原アスナロ	5.73	資料3-1 30P
植物群落保護林	唐沢ヤシオツツジ	57.08	日光	S48	希少個体群保護林	唐沢冷温帯コメツガ・シロヤシオ・アカヤシオ →唐沢コメツガ	57.08	資料3-2 30P
植物群落保護林	浄蓮暖温帯性	37.35	伊豆	H3	希少個体群保護林	浄蓮暖温帯上部ウラジロガシ・アカガシ →浄蓮ウラジロガシ・アカガシ	37.35	資料3-2 55P
植物群落保護林	流石山・大峠風衝地(亜高山帯植生)	97.31	塩那	H18	希少個体群保護林	流石山・大峠風衝ミヤマナラ →流石山・大峠ミヤマナラ	97.31	資料3-3 55P
植物群落保護林	西金砂常緑広葉樹	14.39	茨城	H6	希少個体群保護林	西金砂暖温帯上部スダジイ →西金砂スダジイ	14.39	資料3-2 58P
植物群落保護林	猫越暖温帯性	11.28	伊豆	H3	希少個体群保護林	猫越暖温帯性ウラジロガシ →猫越ウラジロガシ	11.28	資料3-2 58P
植物群落保護林	富士山六番低山帯	6.17	静岡	H3	希少個体群保護林	富士山六番低山帯ブナ →富士山六番ブナ	6.17	資料3-2 58P
植物群落保護林	八溝山冷温帯性	29.49	茨城	S44	希少個体群保護林	八溝山冷温帯ツガ・ダケカンバ →八溝山ツガ・ダケカンバ	29.49	資料3-2 58P

第二回委員会で指摘のあったもの等をピックアップ

(抜粋版)

現行の保護林					区分の再編(案)				
区分	名称	面積 (ha)	該当署	設定	事務局案	名称(案)	面積 (ha)	検討事項	添付図面 (補足説明用)
植物群落保護林	西丹沢ブナ	225.10	東京神奈川	H2	希少個体群保護林	西丹沢ブナ	225.10	鳥獣害対策の検討を加筆	資料3-3 59P
植物群落保護林	西丹沢モミ	50.31	東京神奈川	H2	希少個体群保護林	西丹沢モミ	50.31	鳥獣害対策の検討を加筆	資料3-3 59P
植物群落保護林	猫越暖温帯性	11.28	伊豆	H3	希少個体群保護林	猫越ウラジロガシ	11.28	鳥獣害対策の検討を加筆	資料3-3 58P
植物群落保護林	富士山裾塚亜高山帯	4.84	静岡	H3	希少個体群保護林	富士山裾塚ウラジロモミ	4.84	鳥獣害対策の検討を加筆	資料3-3 59P
森林生態系保護地域	南アルプス南部光岳	3,055.35	静岡 天竜	H2	森林生態系保護地域	南アルプス南部光岳	3,247.99	樹種名を標準和名へ統一	資料3-4 60P
林木遺伝資源保存林	白倉(モミ・シラベ外)	55.23	天竜	H5					
植物群落保護林	中ノ尾根山の森林(原生天然林)	137.41	天竜	S48					
森林生物遺伝資源保存林	秩父山地	2,122.86	埼玉	H9	生物群集保護林	秩父山地	2,145.46	樹種名を標準和名へ統一	資料3-4 60P
植物群落保護林	十文字峠(コメツガ・シラベ外)	22.60	埼玉	S23					
林木遺伝資源保存林	コガネ沢(ブナ・イヌブナ外)	28.21	天竜	H5	希少個体群保護林	コガネ沢ブナ・イヌブナ遺伝資源	28.21	標高の加筆	資料3-4 61P
林木遺伝資源保存林	竜頭の滝カラマツ	12.98	日光	S62	希少個体群保護林	竜頭の滝カラマツ遺伝資源	12.98	周辺のカラマツについて	資料3-4 62P